

あなたのホームドクターから

アトピー性皮膚炎について



アトピー性皮膚炎

アトピーとは遺伝的な体質で、環境要因などによりアトピー性皮膚炎、気管支ぜんそく、アレルギー性皮膚炎、アレルギー性結膜炎のように、身体のいろいろな部位の症状として現れます。

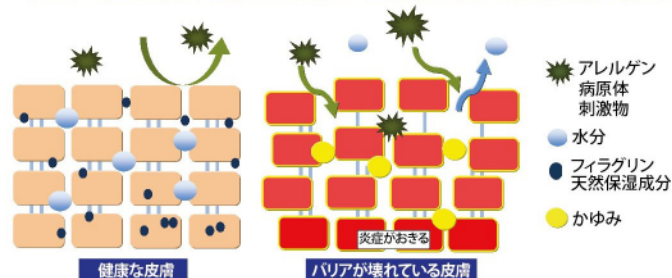
皮膚のバリアが弱くなると、アレルギーの原因となる物質(アレルゲン)や、皮膚への刺激物(強い石鹸、化学物質など)や細菌(黄色ブドウ球菌など)が皮膚の表面から内部へと侵入しやすくなります。同時に、皮膚の水分が失われやすくなり、カサカサとひび割れてきます。その結果、皮膚の炎症や痒みが起きますのです。

(絵図参照)

最近の研究により、アトピー性皮膚炎患者は、皮膚に含まれるフィラグリンという重要なタンパク質を作る遺伝子の変異が見られ、この結果、皮膚のバリア機能が弱くなっていることが指摘されています。

フィラグリンの働き

- ・角質細胞のケラチンを束ねる(角質機能のサポート)
- ・少しずつ小さい分子に分解され、細胞間の天然保湿成分の供給源となる(保湿)



アトピー性皮膚炎の治療法 4つのステップ

1. 皮膚のバリアを取り戻し保護する

皮膚のバリア機能が戻ることで、症状が抑えやすくなります。皮膚を乾燥させる長時間・高温での入浴やシャワーは避け、非石鹸性・無香料の洗浄料を使用します。保湿剤は、入浴直後に使います。最近の良質な洗浄料や保湿剤にはセラミドや、フィラグリンの前駆物質などが配合されており、皮膚の水分を効果的に保ちます。



2. 原因物質(アレルゲン)を特定する

皮膚プリックテスト、血液検査により、アレルギーの原因物質を特定し、その物質を避けることで、症状が起きたり、悪化することを防ぎます。中等度から重度のアトピー性皮膚炎のある5歳未満の子供さんでは、何らかの食品が症状を悪化させる原因となっている可能性が高いことが、最近の研究で示されています。

3. 感染を治療する

かさぶたや分泌液が続いたり、なおりにくいアトピー性皮膚炎では、細菌感染が起こっていることがよくあります。



4. 炎症を治療する

治療の主流は、副腎皮質ステロイド剤で、塗布部位、患部の状態によりローション、クリーム、軟膏を使い分けます。ステロイド剤の直前または直後に保湿剤も使用するのが理想的です。皮膚炎が改善しても、赤み、腫れ、痒みが残っている限りは弱めのステロイドに切り替えながら治療を継続します。非ステロイド系の免疫調節薬をステロイド薬の代わりに使う場合もあります。